

緑化センター みにがいど No.13

夫婦仲良し キジバト



キジバトは別名「ヤマバト」ともよばれて最も人と親しい野鳥の一種です。

ハトは平和の世界語になっているようですが、その理由は「ノアの洪水の後、最初にオリーブの葉を運んできたから」とか「生き物を採食しないから」だとか諸説あってはっきりしていません。ハト同士で争うこともないようで、いかにも静かで安らかな感じがする鳥です。周年雌雄でいるようですがオシドリほどの評価を受けていないのは不思議です。色調もキジに例えられるほど美しいのに。過去に食材として扱われたせいかもしれません。

キジバト ハト科

今では山里にも、市街地、公園などにも普通に生活している。枝葉の繁った大小の樹木、木々の間の広場、小さな種となる雑草の餌場に水場までそろっている緑化センターはキジバトにとって理想的な生活環境といえる。このため数も他の野鳥よりも多く、何時も人前に姿を見せる野鳥である。

普段の鳴き声は「クー」とか「クー」であるが、さえずるときは高い枝などに止まって「デッポーポー デッポーポー」と低音だが遠くまでよく聞こえる声でさえずる。

繁殖期にはパッパッと羽ばたいて山形に上昇して滑るように降りる動作を繰り返すことがあり、近くで営巣していることがわかる。最近では街路樹や庭木でもよく雛を育てるようになった。人の気配のあるほうが天敵のカラスやイタチ、ヘビなどが近づかないためのようである。巣は細い枯れ枝を皿形に並べただけの粗末な造りで、野鳥の中でも一番雑な方に入る。

周年営巣するためか、卵は2個である。

文と写真 吉見 良一氏

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス